



恒例の歓迎オブジェ 7年振りに横断幕

第95回藤嶺祭 生徒来場者笑顔あふれる

第95回藤嶺祭が10月26日、27日に開催された。109年の学校の歴史の中でも伝統的な全校行事の一つである。藤嶺祭実行委員会を中心に中高生が協力し、各企画を運営して作り上げた。

【川村】

人銀杏

第58号
令和6(2024)年
10月31日

藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
田中湧大 植竹隼也
川村一佳 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
平川慶明 高須祥栄
堀竹涼平 塩見耶摩斗
経澤悠希 梶生海風
(中学校)
中原圭太 村瀬弘旭 石崎航成
題字 東山右衛先生



来場者を乗せて出発進行



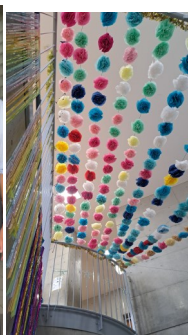
Nゲージ定期運行中 遅延なし



トーレくん(切絵)と中学藤実委員 ⑥手書きの藤嶺祭マップ



ステージ企画 案内を設置(西村-中田藤実委員)
⑤中学生の藤実委員が作った中学棟吹抜けの装飾



歴史的建築物を知る 「国登録有形文化財 桔梗屋」取材



お庭から店先に向けて撮影



「桔梗屋」店先

10月23日、遊行寺橋近くの「桔梗屋」を取材した。12月14日15日に行われる藤沢市街なみ景観課主催の桔梗屋文化祭

に関し、同課長の岡健志氏、上級主査の湯本敦氏に話を伺った。桔梗屋文化祭は本校写真部の他、藤沢清流高校書道部、写真部、鶴沼高校箏曲部(演奏)が出演予定である。6面へ続く。【中原堀竹】

質問に答える黒岩祐治知事



10月22日、黒岩知事と県民との対話の広場「いのち輝くマグネット神奈川」が藤沢商工会議所6階多目的ホールにて行われた。今回の地域テーマは「DXで変わる暮らしを築く未来をつくるAI」であった。この



記念撮影(事例発表者④山口高平先生 ⑤鴻谷則和氏)

「広場」は全県各地域で行われており今回で92回目、これまで延べおよそ1万4000人が参加してきた(5年前も本校生徒会役員、新聞部員参加)。今回は、生徒会役員杉山策哉君(2F)、堀内爽矢君(1B)、吉田智紀君(1F)、矢吹聖侍君(1D)、山口蒼太君(1E)、新聞部川村、堀竹、古谷が参加した。なお今年度は藤沢会場を皮切りに10月29日川崎・ともに働き、ともに生きる、11月6日横須賀三浦「未来への防災チャレンジ」、11月21日県央「行ってみたくなる街・住んでみたくなる街」、12月11日県西「SDGsで、県西地域の未来を創る」が予定されている。6・7面へ続く。

【古谷 堀竹 川村】

藤嶺生「いのち輝くマグネット神奈川」に参加

高2 北海道研修旅行 新たな経験 仲間とともに過ごした最高の5日間

高校2年生は10月8日から12日、学年で2つ分かれて北海道と沖縄行ってきました。どちらに行くかは希望制で私は北海道を選んだので、北海道について記事を書こうと思います。

函館自主研修 綺麗な夜景

1日目は、羽田空港から北海道へと出発しました。函館空港に到着したあと、バスで函館に移動しました。函館では自主研修で、函館明治館と金森赤レンガ倉庫に行きました。函館明治館は1911年に建造され当初、函館郵便局として使われていた場所です。外観はツタに覆われた赤レンガで、中はショッピングモールになっていました。金森赤レンガ倉庫は、函館明治館のすぐ隣にあり、1869年から残る建物です。ここも

有珠山噴火 被災状況を知る

2日目は、大沼公園に行きました。そこはとても広い公園で、公園を周るのに1時間以上を要する公園でした。ここには名曲と言われている「千の風になつて」の生誕の地となった場所があります。次に長万部物産センターで美味しいカニ飯を頂いた後、有珠山へと向かいました。

川下り・鹿角アクセサリー作り

3日目は体験学習で、リバーバスラフティングと鹿角アクセサリー作りをしました。リバーバスラフティングは、川の急流を流すので、その光景には驚きました。

医療に関するフィールドワーク

4日目はフィールドワークで、色々な施設を周って見たり、話を聞いたりしました。周ったのは、済生会の小樽病院、ビレッジ、みどりの里です。そこでは困っている人たちのためにどのようなことを

- 1日目 函館市自由観光
五稜郭観光 函館山観光ほか
- 2日目 駒ヶ岳国定公園観光
有珠山登山ほか
- 3日目 尻別川でラフティング
キャラメル作り、鹿角クラフトほか
- 4日目 小樽研修
済生会みどりの里
済生会小樽病院見学ほか
- 5日目 札幌市内観光ほか



ハンドメイド鹿角装飾品

しているかということを教えてもらいました。みんなが公平に生活できるようにしていることはとてもよいと思いました。

札幌自主研修 ペンギン見られた

5日目は札幌自主研修で、札幌市時計台とAO水族館に行きました。札幌市時計台では、クラーク博士の像と時計台の構造、歴史を見ることができました。またAO水族館は、AOビルの中にある水族館で、そのビルの4から6階にありました。4階では

ショップがあり、他に小生物が見られました。5階では大きい水槽で魚が見られましたが、6階ではペンギンやクラゲがあり、ペンギンの泳いでいるところが直接見られまし



歴史ある札幌市時計台



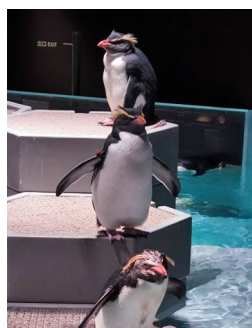
函館のロープウェイからの眺め



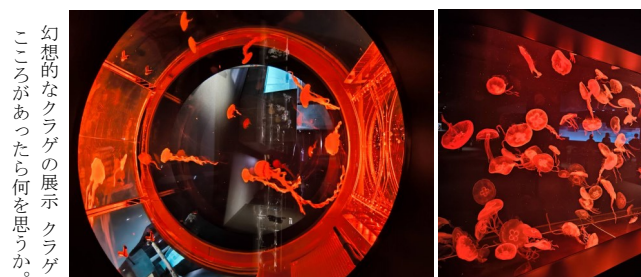
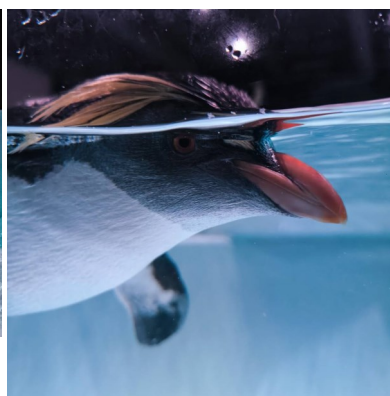
24年前の有珠山噴火を思っって恐ろしくなった



建物、道路の被災状況を知った



江の島水族館のペンギンとは表情が違った



幻想的なクラゲの展示、クラゲにこころがあつたら何と思うか。



刻銘碑は、平和の広場を中心にして放射状に円弧の形で広がりをもって配置されていた

高2 沖縄研修旅行 平和を実感した経験

今回の沖縄研修旅行を通して、平和祈念公園では太平洋戦争で亡くなった方に関するお話を聞いたり、当時の人々の食事、生活などの展示を見て、爆弾が落ちてくる心配をせずに安心して眠れることや健康的な食材からできているとても美味しい料理、美味しくて清潔で安全な水を飲めることに対しての有難さを改めて実感しました。

次に、おきなわワールドではバブという毒を持ったヘビもいました。その他、周りの仲間とヘビを首に乗せて写真を撮ったりもしました。特に心に響いたことは、バブが昔に人間を飲み込んだということです。おきなわワールドにあった記事の内容で、自分で

平和の礎（いしじ）：建物の基礎の「いしじえ」を沖縄方言で「いしじ」と発音することによって由来する。
建設の趣旨：沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」を、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して1995年6月23日に建設する。
（沖縄県営平和祈念公園ホームページより）

はその記事を読んだ時、バブと人間では体の大きさも全く違うにもかかわらず、バブが飲み込んでしまうということに対して脅威だと感じました。

【堀竹】



4日目午後コーラルビュークルージング
（もとぶ元気村）



4日目午前「やんばる自然塾」でマングローブの観察



初めて見たシークワサーの木



4日目の夕、晴れの時にまた来たい



ベンチの雰囲気もよいと語った菊地監督（3回戦試合前）

高校野球秋季大会2回戦藤沢は星槎国際湘南と対戦した。後攻の藤沢は先よく1回に1点を先制。2回は互いに無失点。その後3回に星槎が1点を獲得し、追いつかれたが、藤沢が3点を獲得し再びリードした。続く4回、5回も互いに無失点であったが6回、星槎が4点を獲得し逆転した。しかし藤沢も2点を獲得し再びリード。そしてその後、藤沢が7回に1点を獲得し8回から9回まで互いに無失点で、結果は7対5で藤沢が勝利を収めた。

3回戦は、県立相模原と対戦した。先攻の藤沢は1回に2点を先制し、2回も1点を獲得。その裏、相模原に1点返され、続く3回も相模原に3点奪われ、同点に追いついた。



気合の狙い撃ち内海主将3回戦



勇姿、チーム一丸、勝利を目指す(3回戦)



強打線相手に力投(3回戦)



応援スタンド
(3回戦)

硬式野球部 秋季大会ベスト16

勝利を信じ、逆転許しても直向きの強さ

れてしまった。4回、5回を獲得し同点。しかし7回に相模原に1点を取られしまう。しかし藤沢は8回に2点、9回に4点を獲得し、結果11対6で勝利を収めた。

【川村】

遊行寺 薄念仏会

遊行寺と呼ばれる時宗総本山清浄光寺は、来年開山700年を迎える。毎年9月14日15日は、秋の開山忌であり、2日間にわたり一遍上人の忌日法要が行われる。今回新聞部は、秋の開山忌の法要の一つとなっている薄念仏会予すきねんぶつえを取材した。因みに元々秋の開山忌は別日であった。▼薄念仏会とは「一遍上人が祖父、河野通信の墳墓を弔われた時に始まった法要とされています」と薄念仏前に僧侶の方より説明があった。因みに遊行寺H.P.に「『一遍聖絵』5巻には、(中略)墳墓を囲んで僧尼が座して念仏している姿があり、塚の上部には薄と思われる草が2、3株ほど描かれています。このときに踊り念仏が行われていたと思われる、時宗教団では『薄念仏』と称



①藤沢の踊念仏保存会による踊念仏(これは本校事務所の江坂さん(⑦左)、伊藤さん(⑤右)の姿も



③薄の周りをお上人と6人の僧侶が「南無阿弥陀仏」と念仏を幾度も唱えながら回る
④本堂には18の提灯がつるされていた ⑤中央 境内に秋の開山忌のための柱が立てられていた



中学球技大会 優勝クラス

	サッカー	卓球	バスケット
3年	2組	3組	1組
2年	3組	1組	2組
1年	3組	3組	1組

2024.10.11. 【撮影：石崎】



ルーズボールを制して見事なパス



勝利を目指して、スマッシュ



勝利のために、チーム一丸で走った



緊張が伝わってきた試合直前の実戦練習



開会式後、諸注意を確認する2年生



開会式後、試合予定、対戦相手を確認する1年生(奥2年生)

中学卓球部新人大会、中二村瀬弘旭、中一富高亮太君が湘南ブロック大会へ進出

10月12日、第71回神奈川県中学生卓球大会予選会、兼藤沢市中学校新人卓球大会個人戦から、中2生の部で、岸本悠君、山岸篤弘君、北川悠人君、柏柳日向君、村瀬弘旭が出場し、山岸君が初めの試合で勝利し個人戦ながら仲間の士気を高めた。結果は湘南ブロック大会へ村瀬が進出した。中1生の部では、大野拓君、上田英明君、岡田翔真君

(藤沢市教育委員会主催)が秩父宮記念体育館で行われた。本校が初戦で惜敗したがそれぞれが、次の大会に向け課題を発見できた。試合後、語っていた。また富高亮太君は2、3回戦を圧勝し4回戦へ進出し、湘南ブロック大会へ駒を進めた。(写真1写真2試合前諸注意を確認する2年生 写真3諸注意を確認する1年生) 【村瀬】

今年着任された先生 国語科 手代木 元先生

堀竹

歴史的建築物を知る 桔梗屋取材

1面に続きここでは、会場である「桔梗屋」について少しでも説明したい。紙商の桔梗屋さんは、江戸時代嘉永年間（1848〜1855年）頃から藤沢宿において、茶や紙の問屋を代々営んでいた旧家であった。現在の建造物のうち、店蔵（みせぐら）と主屋（しゅおく）は4代目斎藤清右衛門が明治44年（1911年）に竣工したもので、令和2年9月まで紙商の店舗として営業された。この歴史的建築物は、「一部に後世の改造はあるものの当初の姿をよく残しており、各所の造作からは優秀な左官技術がうかがえる。特に黒漆喰塗の外観と観音開窓などの意匠は江戸型と呼ばれる店蔵の典型的な特徴」と言われている（藤沢市郷土歴史課令和5年3月資料より）。明治から大正時代の旧藤沢宿の町並みは土蔵造の蔵や



主屋、店蔵よりも古い文久元年（1861年）建築の文庫蔵



店蔵2階内部。屋根の角度も時代により変化、屋根の垂木も、屋根の角度により足されていた

店舗が建ち並び「蔵の町」でもあった。かつての景観を現代に伝える存在として、平成25年12月に国登録有形文化財（建造物）に登録された。「桔梗屋」、歴史的建築物のお話を岡さん、湯本さんからお聞きして、まさに江戸、明治時代からの建築物から藤沢の歴史を今日のわたしたちが知ることができた。紙商桔梗屋が閉じられた令和2年9月以降に、「桔梗屋」は藤沢市に寄贈され街なみ景観課により市民の活動のために活用されている。桔梗屋文化祭は昨年開かれ、その他、10月19日の藍染イベントに地元高校生が参加した（「桔梗屋×ブルーハンズプロジェクト」）や藤沢産野菜の販売（毎月第2、第4土曜）が行われている（次号に続く）。

【堀竹 中原】

「AIとくらし」を考える、いのち輝くマグネット神奈川に参加

10月22日、藤沢商工会議所で「黒岩知事と県民との対話の広場」が開かれた。参加者は120名程で、その中におよそ5校の高校から約50名の高校生が参加した。事前に決められたテーマ「DXで変わる暮らしを探究する未来をつくるAI」をもとに、知事に対して質問をするというイベントだ。会場には黒岩知事だけでなく、事例発表者として神奈川大学教授で人工知能学会元会長の山口高平先生（やまぐちたかひろ）、日立システムズデジタル・ライフサイエンスサービス本部主管技師長の鴻谷則和氏（こうたにのりかず）



最新のAIの現状について語る黒岩知事

が登壇した。知事の挨拶から始まり、その後に事例発表、意見交換が行われた。

これまでのAIとこれからのAI

事例発表では山口高平氏がAI（人口知能）の語源、歴史、そして将来への可能性について話された。「AIを使った医療ではガンが発見率が98%に向上する」「新しく登場したChatGPTはたった2か月でユーザーが1億人に到達している」「新しいGPTは1千万冊の情報が入っており、その中から一瞬で情報を抜き出すことができる」。これらのことからEUなど海外ではAIに対する規制が強まる動きがあり、またアメリカでは映像制作に関わる人々のストライキが起きているとのことだった。

健康とAI

続いて鴻谷則和氏は東京大学COLのMIRAMEDについて話され、これは健康促進のためのアプリで、保健指導ツールである。利用者のデータを管理して、生活習慣による健康状態による将来の顔画像の予測、それに対する毎日の食生活や運動などの課題が、アプリ利用者にもえられるという内容であった。

AIはツール、人とAIの未来社会

来場者と知事の意見交換が行われた。まず他校の地元高校生

から、善行で運転手不足に対応して、また利便性からAIを活用した路線バス自動運転を望んでいるが、知事、神奈川県の自動運転による路線バスのあり方についての考えを教えてくださいという質問があった。

知事と山口先生は、バスの運転手が足りていない点、それを補うために自動運転のバスはよろうと思えばできるが、100%の安全がないと実用化は難しい。また、アメリカではすでに運用されていて、サンフランシスコ、ロサンゼルスで実際に自動運転のタクシーが数百台走っているとのことであった。事故は残念ながら起こっているということであった。自動運転について、日米で実用化へのハードルの大きな違いがわかった。

またニューヨークの実証実験では、人通りの多いマンハッタンでは人に取り囲まれ、動けなくなってしまうという事例があると山口先生より説明があった。山口先生は、日本は安全性を重んじるため、2030年までには実用化されるだろうとの見解を示した。

続いて、市民の方から、アプリを生活に浸透させるには何が大事かという質問があった。これに対し、鴻谷氏はデータは簡単に入力できないといずれ面倒くさくなって入力しなくなってしまう。ヘルスケアアプリが浸透したのは小型電子機器の実用化によるものと説明があった。またアプリを浸透させるにはシンプルに見える化することも大切というお話であった。

そして知事からは、Met-Boxミットというイベントが11月に箱根で行われるが、そこでは指輪で体の中のホルモンがわかたり、脳の写真を見るだけで認知症の予測ができるというAI技術が紹介される予定と説明があった。この他、教育とAI、パワハラ防止とAIなどの話題が高校生、市民の方から多く話題となった。

最後に黒岩知事は「AI技術が進化するなかで『最後に残るのは何か』と来場者に問いかけが行われ、本日はたくさん意見交換ができて嬉しく思います」と閉会の挨拶をした。

今回の黒岩知事と対話の広場を通して、これまで自ら赴いて講演会に行くことはなかったの、よい経験になった。また、難聴にも聞き取りやすいよう字幕がスクリーンに映し出されたり、手話通訳がいたり配慮がなされていたおかげで話が分かりやすく、AIとDXについてよく知ることができた。今年は一人しか質問ができなかったが、もし来年また機会があればもっと質問をすることを含め、さらにこれからの社会を知りたい、伝えていきたいと思う。

一人質問をしたのは新聞部川村（左頁参照）で、黒岩知事からは「県内すべての大きな道路をAIを使って調査して白線を塗り直したりしている。実際にどれだけお金がかからなくなっているかは今の段階ではわからないが、時間がたてば、それは分かってくると思う」というお話であった。

【古谷 堀竹 川村】

事前にテーマから各自が考えた意見・質問

生徒会役員の意見・質問

「生徒会長一見大翔君（2A）
副会長長杉山策哉君（2F）
副会長堀内爽矢君（1B）
書記長吉田智紀君（1F）
書記矢吹聖侍君（1D）
会計監査山口蒼太君（1E）」

堀内爽矢君の意見・質問

「こんばんは。藤嶺学園藤沢高等学校の生徒会です。わたしたちは、日ごろiPadを毎日授業でようようしています。私たちは、DXの進展と世間の注目を集めた「黒塗り文書」や「文書改ざん」について考えました。今は、人間が政治を行って、透明性が確保しづらい中で、AIが行政手続きや県民の生活に繋がってきています。そのようにAIが台頭してきている中で、どのように、AIの判断プロセスを透明化し、そのような状況を県民にわかりやすく伝えるには、どのように工夫されていますか。またAIやDXの進展により「文書改ざん」

のような事が増えてしまうことはありますでしょうか。この2点について教えてください。」

「インターネット上のコミュニケーションの増加に伴うトラブルとその対策法」
「こんばんは。藤嶺学園藤沢高等学校1年の堀内と申します。私は、スマートフォン（以下スマホ）を使うことで生活はより豊かに楽しいものになると考えています。確かにスマホはメールもでき、調べものもできるので優秀な機器です。総務省の調べによると令和2年、青少年のネット利用率は約93%、またネットを利用する機器の割合の約63%はスマホであり、実に約54%がスマホでネットを使用しているそうです。しかし、そうした状況の中、ネット上でのトラブルは増加の傾向にあります。国の調査ではネット上での

のトラブルは約6万500件にも登りました。私は、幸いにもネット上でのトラブルにまだ巻き込まれていません。

しかし私の近くでは既にトラブルは起こっています。このことはデジタル化していく社会には必ず発生してくる問題だと思われ、その具体例とともに対策を考えていきます。※ここでのトラブルとはワンクリック詐欺や消費者トラブルなどではなく、人々の間でのコミュニケーションのトラブルのことを指します。

例えば、「西で仲間はずれにしたり、悪口を送信したりすること」はこれまでも若者も含め、起こっています。このような人権を無視した情報を書き込まれた人は、精神的に深く傷つき、追い詰められ、学校へ行けなくなることもや体の不調を訴え、自殺へとつながることがあります。

私は、ネットトラブル、ネットを利用したいじめを減らすべきだと考えています。しかし、ゼロにするということは難しいので未然に防ぐこと、またこのようなことが起こったら早期発見、早期対応が必要で、そこで私は、スマホ、パソコン、そしてネットの悪い使い方をもちと家庭、学校、地域で教えるべきだと思います。ネットのよいところは知っています。しかし学生は少しは悪いところをニユースなどで知ってはいるものの、他人事だと思いついて、確かに当事者などではないと恐ろしさを理解することは難しいでしょう。しかし、何度も教えて未然に防ぐことはある程度はできるはずで、実際、私が受けた

新聞部の意見・質問
川村一惺（2C）

「人と人との関わり、関わり合いは、人間社会に必須です。神奈川県において、DXを進めて便利な社会になっていると県のホームページを読んでいるので、DXの進展によって、経済的に、いくら経費は抑えられていますか、情報処理・検索機器（ICT、AI）によりどれだけの人員がかからなくなりましたか。その経費削減分は、行政サービス、対面サービスとして、どれだけその経費として回せていますでしょうか。教えてください。」

堀竹涼平（2A）

「情報リテラシーの格差について、特に高齢者は情報機器の操作は若者に比べ、難しい面があると思います。そのような状況のなか、高齢者を介護する介護士や看護師が、高齢者とともに情報機器を使用している、ネットニュースやいろいろな情報を知る機会を増やすことは必要なことであると考えています。僕たちの学校（藤嶺学園藤沢中学校高等学校）では1人1台タブレットを使用しています。例えば、茶道の授業ではタブレットを使いますが、時々授業の後に先生が修了茶会に向けてのポイント動画を送ってくださり、所作を確認できました。介護や看護の世界でも、高齢者とともにタブレットを使うのは、例えば介護予防体操や運動動画を高齢者が見て行うなど、有効なことかと思いま

す。情報機器と高齢者について、いかがお考えでしょうか。」

古谷貴一（2C）

「こんばんは。藤嶺藤沢高校新聞部の古谷です。僕は、県内公私の学校と生徒への助成金を増やして欲しいと思っています。本校では、学園祭でクラス「シャツ」を作ろうとしていたのですが、生徒会補助が2000円だったところ、10000円オーバーしてしまいました。生徒会費は各生徒（家庭）の負担ではありませんが、現在、全国の道府県は学校に対する助成金を出していません。しかし、神奈川県は全国で下から3番目と助成金が少なく、神奈川県内の学校からも助成金を増やして欲しいという意見が出ています。僕は県と生徒のため助成金を出して欲しいと思います。生徒会に立候補している人たちは、個としての意見があつて、この学校をより良くしたいと思っているはずで、そのような人たちは、周りに流されやすく、ただ言われるがままに働いている日本人にはとても貴重な存在だと思います。また現在、学校の環境を良くするという名目で学校に対する助成金が出されていますが、学校の環境をよく知っている者は、学校の生徒も含まれると思います。このようなことを考慮していただき、生徒に対する助成金、公私の学校へ助成金を出して欲しいと思います。学校への助成金について、いかがお考えでしょうか。」



神奈川DX計画

～県民目線のデジタル行政でやさしい社会の実現～
本編



令和6年3月
神奈川県

事前に意見や質問を考える際にネット見つけた神奈川県の資料

デフリンピック選手を知る「手話言語国際デー」



金澤翔子氏 揮毫に際して鈴木市長も参観

9月23日、藤沢駅前前のサンパール広場と藤沢市役所にて「手話言語国際デー」に関するイベントが行われました。サンパール広場では、日本を代表するデフリンピック4人の選手の方々と歌手で俳優の小山慶一郎さんが登壇しトークショーが行われました。手話とはどういったものなのか、デフスポーツ時の選手同士のコミュニケーションの取り方などに関するお話がありました。市役所では、書家の金澤翔子氏の席上揮毫が行われました。一畳サイズの用紙に文字を書くところを間近で見られたほか、ご揮毫後にダンスも披露され、華やかなパフォーマンスに会場に集まった市民の方々から手拍子が起こり大いに盛り上がりま

【古谷】



書家 金澤翔子氏 「翔」という字を丁寧に揮毫されていた ④駅前広場の横断幕

となりのトトロともののけ姫 川村一惺

突然ですが、皆さんはスタジオジブリの映画作品のなかでどの作品を好みますか。やはり大ヒットした「千と千尋の神隠し」や初期の作品の「天空の城ラピュタ」を好む方は多いと思います。私は「もののけ姫」が凄いい作品だと思います。小学生時代に見た作品は「となりのトトロ」でした。私の好きなシーンは、トトロがサツキから傘を貰って喜ぶシーンです。このシーンでトトロは、傘に雨水が当たる音を聴いて驚き目が丸くなりますが、その後すぐに楽しくなったようで笑顔になります。この時のトトロの驚いた表情と笑顔がとても可愛く一推しです。

「もののけ姫」の話に戻りますと、中学の遊学塾で「もののけ姫」はこうして生まれた」という動画を見て、エンディングロールに清浄光寺という文字があり、さらに興味深くなりました。今年の夏に新聞部で横須賀美術館の「鈴木敏夫とジブリ展」を見に行きました。展示には、手書きによる宮崎駿監督の作品を生み出す際の企画書や鈴木プロデューサーによる企画書がありました。これらを読んで、さらにスタジオジブリの作品が好きになりました。

夏休みを利用して「宮崎駿作品集」とDVDを一つひとつ読み、視聴していききました。この作品集には、付録として冊子があり、その中に「もののけ姫」企画書がありました。少し長いですがその中の「宮崎駿『もののけ姫』企画書を引用します。

「この作品には、時代劇に通常登場する武士、領主、農民はほとんど顔を出さない。姿を見せなくても脇の脇である。主要な主人公は、歴史の表舞台には姿を見せない人々や、荒ぶる山の神々である。タタラ者と呼ばれる製鉄集団の、技術者、労働者、鍛冶、砂鉄採り、炭焼、馬借あるいは牛飼いの運送人達。彼等は武装もなし、工場制手工業ともいえる独自の組織をつくりあげている。人間達に対する荒ぶる神々とは、山大神、猪神、熊の姿で登場する。物語のかなりとなるシン神とは、人面と獣の身体、木の角を持つまったく空想上の動物である。主人公の少年は、大和政権に亡ぼされ古代に姿を消したエミシの末裔であり、少女は類似を探すなら縄文期のある種の土偶に似ていないくもない。主要な舞台は、人を寄せつけぬ深い神々の森と、鉄を作る城砦の如きタタラ場である。従来の時代劇の舞台である城、町、水田を持つ農村は遠景にすぎない。むしろ、ダムがなく、森が深く、人口のはるかに少ない時代の日本の風景、深山、幽谷、豊かで清冽な流れ、砂利のない土の細かい道、沢山の鳥、獣、虫等、純度の高い自然を再現しようとする。これらの設定の目的は、従来の時代劇の常識、先入観、偏見にしばられず、より自由な人物群を形象するためである。最近の歴史学、民俗学、考古学によつて、一般に流布されているイメージより、この国はずっと豊かで多様な歴史を持っていた事が判っている。時代劇の貧しさは、ほとんどが映画の芝居によって作られたのだ。この作品が舞台とす

横須賀美術館にて、「鈴木敏夫とジブリ展」午後入り口には多くの人が並んでいた

